



千葉労働運動

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

92.2.12 No. 3537

俺たちは人間だ！生命と安全をかけた

2.21ストライキで現場を

全システムへの大合理化の突破口

92.2.21『ダイヤ改を許すな』

JR東日本当局は、JR東労組の屈服・裏切りを背景にして動乗勤を導入し、道輸送の本体である動力車乗務員の勤務、労働条件を抜本的に改悪し、その具体化の一步として「九二・三」ダイヤ改悪に踏み込んできた。しかも、ニセ「時短」を口実にしてである。

又、JR貨物関東支社は、一月三十一日、「三月ダイヤ改」の提案をおこなってきた。

こうした労働者を人間ともしないJR当局に対し、現場の怒りは労組を問わず臨界点に達しているのである。

現状ですら限界にある苛酷な労働条件の中で現場は安全確保のために骨身を削って一生懸命に奮闘している。これに対し当局は非情の極致にある。このままでは我々の命も乗客の安全もあつたものではない。

まさにJRはいまや荒廃の極致にある。このままでは我々の命も乗客の安全もあつたものではない。

内容の特徴は、「日刊」5532号で既報のとおり、検修、事務など地上勤を対象に業務委託、パト化などによる強引な人減らし攻撃である。

削減などの仕打をもつておそいかかってきているのだ。しかも千葉支社は、千葉運転区の市東君に対する出勤停止二五日の重処分攻撃をはじめ卑劣で不法・不当な動労千葉つぶし攻撃を依然

として加えている。だが、当局自らおこした列車設定のミスによる団臨の立ち往生(一月二一日錦糸町)や行方の泥酔事件(日刊3535号)などについては一切を不問に伏してなんの責任もとらうとしていない。

またにJRはいまや荒廃の極致にある。このままでは我々の命も乗客の安全もあつたものではない。

ストライキ決起は荒廃しきつたJR体制を打破し変革する力でもあるのだ。決意も新たに二・二一ストへ！

- ### われわれの要求(申16号・17号の西折江)
- ① 各「準備時間」「折り返し時間」を明らかにすること。
 - ② 各「準備時間」「折り返し時間」「整理時間」に関する算定した項目の具体的な時間を明らかにすること。
 - ③ 各項目略
 - ④ 各「準備時間」「折り返し時間」「整理時間」に関する算定した項目の具体的な時間を明らかにすること。
 - ⑤ 幕電、習志野電車区等の限定免許による施策をやめ乗務員高齢者対策として取り組むこと。
 - ⑥ 各箇所の「準備時間」「折り返し時間」「整理時間」について余裕をもつて作業ができる時間に直すこと。
 - ⑦ 各区の「行路」については、食事時間・六〇分

二・八第一一回労働学校

「戦後労働運動の軌跡」

その21

「労働者の闘いから生きと力を学んだ」

労働者の闘い(三井三池闘争等)において、七〇年代以降「本当に血を流すような、返り血をあびるような闘いがあるのか」

「その中から何かが生れる」という言葉は、動労千葉の分割・民営化反対闘争での闘いを考える時、非常に印象深いものがあった。

又、記者として先生が邂逅されてきた多くの方々との様々な体験談は、日頃私たちが目にすることがない、巡り合う機会のない貴重な講演であった。

動労千葉第二回労働学校は、昨年の第一回講座に引き続き、「戦後労働運動の軌跡」をテーマに、五五年体制以降の労働運動の推移について、村上寛治先生(現国労顧問)の講演を受けた。

講演の要旨は、現在の政治体制の枠組みが、五五年体制以降生み出されたものであること①政治闘争から経済闘争へと転換した総評労働運動、②生産性向上運動を通して、思想改造に踏みだした経済機構、に象徴的に表れていること。

その推移の中での、労働時間について余裕をもつて作業ができる時間に直すこと。

「戦後労働運動の軌跡」

その21

「労働者の闘いから生きと力を学んだ」

労働者の闘い(三井三池闘争等)において、七〇年代以降「本当に血を流すような、返り血をあびるような闘いがあるのか」

「その中から何かが生れる」という言葉は、動労千葉の分割・民営化反対闘争での闘いを考える時、非常に印象深いものがあった。

又、記者として先生が邂逅されてきた多くの方々との様々な体験談は、日頃私たちが目にすることがない、巡り合う機会のない貴重な講演であった。

「戦後労働運動の軌跡」

その21

「労働者の闘いから生きと力を学んだ」

労働者の闘い(三井三池闘争等)において、七〇年代以降「本当に血を流すような、返り血をあびるような闘いがあるのか」

「その中から何かが生れる」という言葉は、動労千葉の分割・民営化反対闘争での闘いを考える時、非常に印象深いものがあった。

又、記者として先生が邂逅されてきた多くの方々との様々な体験談は、日頃私たちが目にすることがない、巡り合う機会のない貴重な講演であった。

「戦後労働運動の軌跡」

その21

「労働者の闘いから生きと力を学んだ」

労働者の闘い(三井三池闘争等)において、七〇年代以降「本当に血を流すような、返り血をあびるような闘いがあるのか」

「その中から何かが生れる」という言葉は、動労千葉の分割・民営化反対闘争での闘いを考える時、非常に印象深いものがあった。

又、記者として先生が邂逅されてきた多くの方々との様々な体験談は、日頃私たちが目にすることがない、巡り合う機会のない貴重な講演であった。

「戦後労働運動の軌跡」

その21

「労働者の闘いから生きと力を学んだ」

労働者の闘い(三井三池闘争等)において、七〇年代以降「本当に血を流すような、返り血をあびるような闘いがあるのか」

「その中から何かが生れる」という言葉は、動労千葉の分割・民営化反対闘争での闘いを考える時、非常に印象深いものがあった。

又、記者として先生が邂逅されてきた多くの方々との様々な体験談は、日頃私たちが目にすることがない、巡り合う機会のない貴重な講演であった。